

観賞用白葉稲新品種「ゆきあそび」の特性

小林 渡・諏訪 充・前田一春・神田伸一郎・川村陽一・今智穂美

(青森県産業技術センター 農林総合研究所)

Characteristics of a New Ornamental Rice Variety with White Leaf “Yukiasobi”

Wataru KOBAYASHI, Mitsuru SUWA, Kazuharu MAEDA, Shinichiro KANDA, Yoichi KAWAMURA and Chihomi KON

(Agriculture Research Institute,

Aomori Prefectural Industrial Technology Research Center)

1 はじめに

近年、観賞用の稲を使った田んぼアート等が、注目を集めている。青森県では、これまで在来品種である極短稈で葉色が紫色の「短稈紫稻」、極短稈で葉色が黄色の「黄色稻」、極短稈で葉色が濃い緑色の「観稻」の3色品種が主に用いられてきた。しかしながら、田んぼアートの技術が向上するとともに、従来からある3色の稲では図柄のパターンに変化が乏しくなることから、現場からはさらに精巧な表現をするために、色彩を拡大できる品種育成が要望されていた。

2 育成経過

「ゆきあそび」は、直播栽培向け早生品種の育成を目標として、「合系8号/ゆめあかり」のF₂を母、「ゆめあかり」を父とした交雑後代から育成された系統である。2000年に青森県農業試験場育種部（現 地方独立行政法人 青森県産業技術センター農林総合研究所 水稻品種開発部）において、人工交配を行った。同年冬期間にF₁世代を温室で栽培し、その中から生育初期の葉身に白い縞が入り、その後生育が進むにつれて、株全体が白く見える1個体を選抜した。翌2001年（F₂世代）以降は、圃場において系統栽培により選抜と固定を図ってきた。2006年（F₇世代）から生産力検定試験並びに特性検定試験に供試し、さらに観賞用や景観用（田んぼアートなど）として検討した結果有望と認められたので、「青系観175号」の地方系統名を付した。2009年

11月に、田んぼアート等での村おこしに積極的に取り組んでいる、青森県南津軽郡田舎館村の村議会及び村おこし推進協議会から、白い稲を使用した絵柄制作のため、「青系観175号」の品種登録に対する要望書が（地独）青森県産業技術センターに提出された。このため、2010年3月に「ゆきあそび」の名称で品種登録出願を申請し、同月「観賞用稲品種の種子の配付要領」を策定し、当センターホームページ上で種子価格、配付条件等を公開して、種子の配付を開始した。

3 特性の概要

(1) 形態的・生態的特性（表1、2、写真1）

稈長は“極短稈”、穂長はやや長いが粒着粒数・穂数は少なく、草型は“中間型”である。移植時の苗の葉色は緑色で、稀に白い縦縞が入る。生育の初期は、葉色は葉身、葉鞘とも淡黄緑～白色に緑色の縦縞を有する。生育中期～出穂期にかけて、白色部分の割合が多くなるため、株全体として白く見える。出穂直後の芒及び穎色は、白～黄白色である。出穂期以降、葉身の老化が早く、登熟後期には全体が褐色を帯びた色になる。出穂期及び成熟期は「つがるロマン」より遅く、育成地では“晩生”である。倒伏は認められないが、稈の太さは“やや細”、稈質は“やや柔”ということから、栽培条件、気象条件によっては倒伏する可能性がある。収量性は「つがるロマン」の4割程度と少なく、玄米品質は劣る。穂孕期の障害型耐冷性は“やや弱”以下である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は不明で、葉いもち・穂いもちともほ場抵抗性は不明である。

(2) 観賞用・景観用としての特性 (写真2)

葉色が白いことから、観賞用・景観用に向き、田んぼアート等では白い色として描く部分に利用することにより、絵柄を色彩豊かに表現することができる。葉の白さの見頃は、最高分け時期～出穂直前の頃である。

4 栽培適地及び栽培上の留意点

栽培適地は、青森県内では全域である。播種量は、千粒重が軽いため、中苗の場合乾籾で85g/箱程度とする。生育の初期は低温に弱いので、冷水のかかるほ場では作付けを避ける。

表1 形態的特性調査結果

品 種 名	移植時		稈		葉身 の色	芒		ふ先色	穎色	粒着 密度	脱粒 性	玄米	
	苗丈	葉色	細太	剛柔		多少	長短					形	大小
ゆきあそび	やや短	中	やや細	やや柔	淡黄緑～白色に 緑色の縦縞	少	短	白	黄白	やや疎	難	半円	小
つがるロマン	中	中	やや太	やや剛	中	中	短	白	黄白	やや密	難	半円	やや小
まっしぐら	やや長	淡緑	太	剛	淡緑	少	極短～短	白	黄白	やや密	難	半円	やや小

注) 品種登録出願の特性審査基準等による。

表2 生産力検定試験調査結果

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	穂数	倒伏 程度	全重	玄米重	玄米重 標準比	屑米 重	千粒 重	玄米 品質
	(月.日)	(月.日)	(cm)	(cm)	(本/㎡)	(0-5)	(kg/a)	(kg/a)	(%)	(kg/a)	(g)	(1-9)
ゆきあそび	8.13	9.24	43.9	19.4	287	0.0	67.7	22.5	39	3.4	18.9	6.1
つがるロマン	8.8	9.21	77.2	17.6	367	0.0	152.7	57.6	(100)	3.7	22.1	3.9
まっしぐら	8.7	9.21	71.2	17.8	377	0.0	157.2	59.6	103	2.3	22.5	4.4

注) 1 2006～2009年標肥区調査の平均値である。

2 N成分は、0.8+0.2kg/a (2006年)、0.5+0.2 (2007年)、0.6+0.2 (2008年～2009年)、ともに追肥時期は幼穂形成期である。

3 倒伏程度：0 (無倒伏) ～5 (完全倒伏)。玄米品質：1 (上上) ～9 (下下)。



写真1 「ゆきあそび」の生育中期の草姿



写真2 2010年度 田舎館村田んぼアート

「弁慶と牛若丸」

(写真の絵柄の白い部分が「ゆきあそび」)